

水辺が映す、 人のかたち。

好きが、まちになる



いつもの水辺を、

少し違う目で

市の中心を流れる大山川

橋の上から眺めたり、
車で横を通り過ぎたり。

川は、暮らしのすぐそばにある何気
ない風景です。けれど、実際に川に
入ってみると、見ているだけでは気
づかなかった世界が見えてきます。
この特集では、大山川で行われるこ
どもたちの水生生物調査を入口に、
そこに関わる人たちの想いをたどり
ます。

いつもの水辺を少し違う目線で見た
ときに映し出される人のかたちを、
のぞいてみてください。



大山川

庄内川水系の一級河川。
小牧市を水源とし、豊
山町、北名古屋市、名
古屋市を流れ、新川に
合流する。

川に入ると、見えてくる。

いつもの景色の下に、 知らなかった世界が広がっていた

市内 6 校の小学 4 年生を対象に行っている市内河川の水生生物調査。
こどもたちが夢中になって川底をのぞき込みます。水生生物調査は、
いつもの景色に隠れた「生きものたちの世界」に出会う体験です。水
の冷たさを肌で感じ、小さな生きものを見つけ出す。その一つ一つの
発見を通して、こどもたちは自分たちのまちの自然を学んでいきます。

そして、川がこうしてあり続けている理由が見えてきます。こどもた
ちが安心して川に入り、生きものと出会えるその裏には、この水辺を
守り、魅力を伝え、静かに支えてきた人たちの存在がありました。

水質判定について

川の中には、たくさんの生きものが暮ら
しており、そこにいるかどうかで水のき
れいさがわかる「指標生物」がいます。
どんな生きものが見つかるかを調べら
ば、その場所の水のきれいさを知ること
ができるのです。

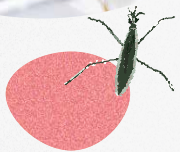
あつ！ なにかいる？

石、
ぬるぬるする

いっぱい
見つけたよ



水、
つめたーい



うわっはやい! つかまえられるよ!



見て!
手でつかめたよ



大山川に関わる人たちに、話を聞きました 想いの底にあるものは

自然の魅力を伝える人、大山川を守る人、そしてそうした活動を支える人。それぞれに話を聞くうちに、あることに気づきました。立場は違っても、その想いの奥底には、どこか重なるものがありました。

こどもたちの水生生物調査に協力いただいている小牧市自然環境観察人の馬場さん、住友理工株式会社の伊藤さん、野口さん、吉田さん、そして大山川をきれいにする会として活動する小沢さんにお話を伺ってきました。



こどもたちに自然のおもしろさを伝えます



小牧市自然環境観察人として活動する

馬場 容子さん

自然環境観察人として、15年にわたって活動が続けている。夏の水生生物調査のほか、オオキンケイギクの駆除、児童クラブでの自然環境学習講座など、次の世代へ自然の面白さを伝える活動に取り組む。

魅力を
伝える人

Q. 活動を続ける原動力は何ですか？

自然が好き。

それだけなんです

やっぱり、自然が好きだからです。私自身、こどもの頃に自然の中で遊んだ経験が、今につながっていると思います。仕事などで自然から離れる時期があっても、こどもができたときや大人になったときに、また自然に戻ってくる。幼い頃の体験は、そんなきっかけになると思っています。

Q. 活動の中で大切にしていることを教えてください

きれいか汚いか。

それだけで、川を見ないこと

調査では「きたない水」と判定されることもあります。でも、汚いから悪いとは思ってほしくないんです。水の状態が違えば、そこにすむ生きものも違います。それぞれの環境に適した生きものがいて、ちゃんと役割を持って生きている。良い悪いで決めつけず、その環境そのものに興味を持ってもらえたらと思っています。

大山川をきれいにする会の代表として活動する

小沢 通男さん

前身の「大山川を愛する市民の会」の活動終了を惜しみ、「大山川をきれいにする会」を立ち上げる。不発中央橋から大井前橋までの区間で草刈りやごみ拾い、花壇の整備を続けている。

川を守る人



たくさんの仲間たちと
保全活動に取り組んでいます!

Q. 活動を続ける原動力は何ですか?

結局、川が好きだからですね

約 30 年にわたり、公害対策や環境の仕事に携わってきました。定年後は、その経験を育った地域のために生かしたいと思ったんです。地域への恩返しという思いもありますが、活動をずっと続けているのは、結局、川が好きだからですね。

Q. 活動の中で大切にしていることを教えてください

きれいな状態を維持すると ごみは捨てにくい

問題が起きてから対処するだけでなく、問題が起きにくい環境をつくるのが大切だと考えています。川が見えるように整え、きれいな状態を保てば、ごみも捨てにくくなる。以前は見られた家電などの不法投棄も、今ではほとんどなくなりました。こうした積み重ねを続けていくことが大切ですね。



草を刈って
きれいな川が
見えるように

オオキンケイギクの
駆除活動などにも積極的に参加!



活動を 支える人

住友理工株式会社で大山川の保全活動に携わる

伊藤 かおりさん

野口 貴之さん

吉田 敏宏さん

市と「自然共生社会の実現に関する連携協定」を締結。生物多様性や地域環境の保全に向け、連携・協働してさまざまな活動に取り組む。

Q. 活動の中で大切にしていることを教えてください

点を線に、線を面に。 活動の輪が広がるように

企業だけで取り組むのではなく、地域や行政、市民団体の皆さんと「一緒にやりましょう」と声を掛け合うことを大切にしています。一つひとつの活動は小さな点でも、それらをつなげて線にし、やがて地域全体へ面として広げることが私たちの役割だと思っています。

Q. さまざまな活動を通じて感じることは?

受け取ったバトンをつなぎたい

事業と関わりのある地域の環境は、長年にわたる多くの人の積み重ねで守られてきたと感じます。先人から受け取ったバトンをつないでいきたいです。たとえば水生生物調査に参加したこともたちが、大人になったときにふとその経験を思い出し、地域や自然に目を向けてくれたら嬉しいですね。



水辺が映す、人のかたち

好きが、まちになる

地域で何かに触れ、知り、心が動く。

そんな体験から生まれた「好き」は、記憶の中に残り、いつか地域に目を向けるきっかけとなり、今日のまちの風景をつくる力になっているのかもしれない。



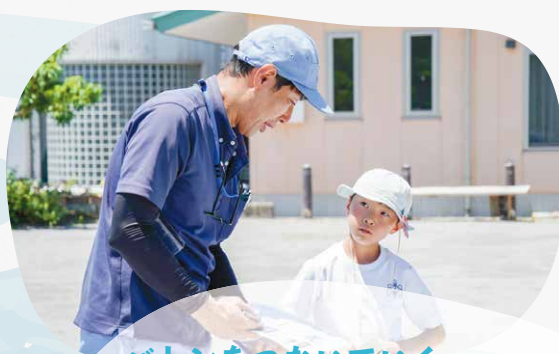
体験する・好きになる

自然に触れる。地域の人と出会う。誰かと一緒に活動する。そこで感じた楽しさや驚きが、地域を好きになる最初のきっかけになります。



大人になり、ふと思い出す

心に残った体験は、すぐに形になるとは限りません。それでも大人になったある日、ふと思い出し、地域や誰かのために動き出すきっかけになることがあります。



バトンをつないでいく

当たり前のように見えていた光景は、先人たちの活動や想いが積み重なったものです。そのバトンを受け取り、次の世代へつないでいく。一人ひとりの行動が重なり、まちの未来をつくっていきます。

こどもたちの無垢な体験から、活動に関わる人たちの想いを巡って見えてきたのは、「好き」をきっかけに、まちをつくり、次の世代へつないでいく人々の姿でした。

大山川クリーンアップ大作戦

次世代に豊かな自然を残し、川に親しめる環境を守るため、大山川沿いのごみ拾いを行う「大山川クリーンアップ」を開催します。地域のために一歩踏み出してみませんか？

【日 時】 10/3 (土) 8:00 ~ 【場 所】 大山川
【持ち物】 軍手、ごみばさみ等

※駐車場および集合場所はホームページをご確認ください
※駐車場に限りがあるため徒歩・乗り合わせでお集まりください
※雨天中止（小雨の場合、当日の6:30に開催の有無を決定）

問合先 環境保全課 ☎76-1136

詳細はコチラ

